

2019/04/21

「復活の意味」

「私たちは、キリストの死にあづかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。もし私たちが、キリストにつき合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。」（ローマ 6:4-5）

イエス・キリストは、十字架で殺され、よみがえり、そのことを通して、私たちも復活することを教えてくださいました。私たちにとって、それはどのような希望なのでしょうか。そのことを知るために、まず私たちが生きているこの世界がどのようなものなのか考えてみましょう。

■始まりと終わりのある世界

人生には始まりがあって終わりがあり、宇宙にも始まりがあって終わりがあります。ここから生じるもののが、「過去」と「現在」と「未来」です。世界はこの流れを決して止めることができません。「過去」「現在」「未来」は私たちに与えるものは何でしょうか。

1. 過去は変えられない

一度過去が生まれるとその過去を変えることはできません。ここから生じるものは「後悔」です。誰もが一度は、「あの時、ああしておけばよかった」という思いを抱いたことがあるでしょう。「過去」を取り消したり、変えたりすることはできないということは、自分の犯した過ちを取り消すことができないということです。後悔することしか出来ない過去に対して、私たちは悩み苦しむことしかできないのです。

2. 現在はつかめない

誰も「現在」をつかまえることはできません。「現在」はどんどん過ぎ去り、一瞬のうちに「過去」に変わり続け、止まるはありません。その結果、私たちは常に結果を出すことを要求されています。お前は何者で、何のために生き、どんな価値があるのか——、私たちは常に時間に追われ、そのプレッシャーを感じて生きているのです。

3. 未来は確定していない

人は確定していない将来に対して不安を抱きます。「試験がうまくいくだろうか」「仕事はうまくいくだろうか」といった不安に対して、どのような結果になるかわからない私たちにはどうすることもできません。私たちの未来で唯一確定していること、それは必ず死が訪れるということです。このことに関しても、私たちにはどうすることもできません。

後悔、プレッシャー、不安、死……。これが、この世界で生きる私たちが背負っている現実です。これを見る限り、この世界に希望はありません。しかし、人はなかなかその現実に目を向けようとはしません。怖いからです。どんなに金持ちになろうが名声を手にしようが、終わりが来て、すべてが無に飲み込まれます。人は、その恐ろしさのため、現実から目を背け、本当の自分と向き合うことを避けて別の自分になろうとしています。そして、時間を無視した世界で休みたいと願い、とどまる場所を求めていきます。

人は「静止」を求めていきます。しかし、時間に追われたこの世界でそれはかなわず、現実に引き戻されては疲れ、また、別な環境に身を置いて、一時的でもいいから休むところを求めるなどを繰り返しているのです。

■この世界は静止しない

哲学では静止できる場所のことを「永遠」と呼びます。つまり、過去も現在も未来もないことです。時間がずっと続くのは「永遠」ではなく「不朽」です。

この世界は止まることはありません。その中で、常に結果を要求され、私たちは疲れています。しかし、休みたいと思っても時が止まることはありません。そこで、多くの人は、一時的にでも時間を忘れるために、空想の世界に身を置こうとします。幼児の空想遊びに始まり、小説やドラマ、絵画などの美術品に心を惹かれるのは、そこに静止があるからです。また、永遠の幸せを夢見て恋愛に心をひかれたりもしますが、現実はそうはいきません。時間の中で生きている私たちは、疲れても時間を止めて休むことができず、快樂に走ったり、仕事に熱中したり、運命だと言ってあきらめたり、そうやって自分を置き去りにして生きています。

この世界で静止しているものは死しかありません。しかし、死を選択した途端、滅びますから、ここにも希望はありません。

あなたはこの世界の中で、現実から目を背けて生きることを選択し、日々樂しければいいと思って生きていかないでしょうか。自分の人生を振り返った時、虚しく思ったり、後悔したりする人生を生きたいと望みますか。

■静止できるという希望

この世界は静止することなく、私たちの人生に希望はありませんでした。そこに、神であるイエス・キリストが来られ、このように言わされたのです。

「私は昨日も今日もいつまでも変わらない。」

つまり、神は静止しているのです。神は永遠であり、神だけは動きません。この世界で唯一動かない存在は、神です。

動かないということは、私たちの動きを留めることができ、過去を洗い流すこともできるということです。ここに希望があるのです。イエス・キリストは私たちの過去を清算すると言いました。動いているものは、自分の過去を清算することができません。しかし、イエス様は動いていないから、あなたの過去を箒で掃くかのように、真っ白にできるのです。イ

エス様は「あなたの罪が緋のように赤くても、私はそれを雪のように白くできる」と言っておられます。そして、あなたは何のために生きるのか、イエス様が差し伸べる御手をつかめば、わかるようになると教えてくださいました。

そして、私たちにとって何よりも重要なことは、イエス・キリストにとどまるならば、静止できるということです。こうして、私たちは本当の安らぎを手に入れることができるのであります。

私たちにとっての静止である死は滅びです。しかし、イエス様の十字架は、死は終わりではなく、永遠の始まりであるという希望を与えます。イエス様は「私のところに来なさい。私があなたを休ませてあげる。」と言われました。

この世界には、確かに休まるところがあります。それがイエス・キリストです。十字架と復活によって、私たちは、死は静止であり、希望だと知ることができます。

■神の知恵によって知る

しかし、死んだものがよみがえるということに対して、多くの人が疑問を持ちます。また、そもそも神がいるのかということに対しても、疑問を持つ人が大勢います。

その疑問は当然です。私たちの知識でそれを信じることが出来ないのは当たり前なのです。なぜなら、私たちの知恵は動く世界での知恵だからです。私たちの知恵は、この世界しかとらえることができません。静止するものを知る知識を持っていないのです。

「事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによって、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。」（Iコリント1:21）

日本人の多くは知恵で神を知ろうとします。自分が理解して納得できたら信じたいと言う人がいますが、それで知ることができる神は偶像であり、イエス・キリストではありません。この世界の神は納得すれば信じができるでしょう。しかし、イエス・キリストは静止する神です。昔も今も変わらないという動かない神を、私たちの知恵では知ることができないのです。

私たちの知恵はこの世界の中の自分を知る知恵であり、永遠の世界を知ることはできません。ですから、神という存在に対しては、知恵ではなく、信仰でアプローチするしかないのです。本当に永遠という安らぎを手にしたいなら、信じるしかないのです。

信じることができれば私たちに平安が訪れます。キリスト教は理解ではなく、信仰の世界です。信じる時にのみ、救われ、希望を持って生きられるようになります。

「この世に神などいない」と言うのは、正しいことです。人が自分の知恵で神を知ろうとするることは、つまずきにしかなりません。神がおられるのは永遠の世界です。確かにこの世界にはおられませんが、この世界の外に神はおられます。その「永遠」を、今現実に手にすることができる、私たちも「永遠」にとどまって、そこに住むことができると教えてくれたのがキリストの復活なのです。私たちには休まる場所がある、静止できる場所があるということ

を教えてくれたのが、イースターです。

現在、過去、未来——いつも動いている中に身を置かなければいけないという現実に対して、疲れ果て不安で死の恐怖におびえている私たちは、何かにつかまって休みたいと願っています。しかし、私たちの知る現実、私たちの知る静止には、希望はありません。私たちがつかまることができる唯一の場所は、イエス・キリストです。人にとって唯一の静止は死しかなく、それはただの滅びであり絶望でしたが、イエス様の十字架と復活によって、死は滅びではなく、静止を与えて永遠と安らぎをもたらすという希望となりました。